※令和４年度以降入学生用

学校番号	３１１

令和８年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高校生物基礎　（実教出版）						
副教材等	アクセスノート生物基礎新課程版　（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・日常生活や社会とのかかわりを考えるために身近なものを観察、実験を取り入れながらゆっくり授業を行います。
・生物に共通する概念や原理・法則を理解し、身に付けるために ICT や問題集を活用します。また授業内容の理解度を確認するために小テストなども行います。

2　学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ，科学的な見方や考え方を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象についての観察，実験などを行うことを通して，生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に，探究の過程を通して，問題を見いだすための観察，情報の収集，仮説の設定，実験の計画，実験による検証，調査，データの分析・解釈，推論などの探究の方法が習得できている。また，報告書を作成したり発表したりして，科学的に探究する力が育まれている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり，それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など，科学的に探究しようとする態度が養われている。その際，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度が養われている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

※令和 4 年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	生物の特徴	①生物の多様性と共通性 ②細胞とエネルギー	a: 生物の共通性と多様性について, すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解するとともに、細胞小器官などの細胞内の構造を理解できる。 代謝には酵素やエネルギーが関係していることを理解できる。 b: 細胞が生物の基本構造であることを, 生物学的な視点から考察することができる。 c: 生物の共通性を, 実験や観察を通して見いだし, 探究しようとする。	定期考査 提出課題	定期考査 提出課題	提出課題 小テスト
	遺伝子とその働き	①遺伝情報と DNA ②遺伝情報とタンパク質の合成	a: DNA が二重らせん構造であること, そのため, 2 本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。 DNA の塩基配列に基づいて, タンパク質が合成されることを理解している。 b: DNA の複製を塩基配列と関連付けて説明することができる。 c: DNA の塩基配列の情報に基づいて, タンパク質が合成されることを探究しようとする。	定期考査 提出課題	定期考査 提出課題	提出課題 小テスト

※令和４年度以降入学生用

2	ヒトのからだの調節	①体内環境 ②体内環境の維持のしくみ ③免疫	a: 体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。 b: 体の調節に関する観察，実験などを行い，体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解することができる。 c: 外界の環境が変化しても，体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。	定期考査 提出課題	定期考査 提出課題	提出課題 小テスト
3	生物の多様性と生態系	①植生とその成り立ち ②植生とバイオーム ③生態系のバランスと保全	a: 生態系内における種多様性，生物どうしのかかわりあいについて理解している。 b: 資料に基づいて，遷移の要因を見いだして理解することができる。 生態系について，生物の多様性の視点から考察することができる。 c: 資料に基づいて，様々な要因が生態系にどのように影響しているかを理解しようとする。	定期考査 提出課題	定期考査 提出課題	提出課題 小テスト

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度